

60歳になっても

ロックンロールやれる。ケツ振れる。

これを感じと言わずに何が感謝だ。

E. YAZAWA



製作・監督:増田久雄 監修:矢沢永吉 プロデューサー:村山哲也 アソシエイト・プロデューサー:藤田俊文  
撮影:瀬川龍 録音:高橋義照 整音:瀬川徹夫 編集:熱海顕一 製作:映画「ROCK」製作委員会(東映・  
ブルミエ・インターナショナル トムス・エンタテインメント/東映ビデオ/ラテルナ) 制作協力:音  
製作プロダクション:ブルミエ・インターナショナル 配給:東映 ©2009 映画「ROCK」製作委員会  
www.rock-yazawa.com

1979→2009

日本のROCKの歴史はこの男で始まった——  
矢沢永吉30年間のドキュメント!



「自分で自分の事、  
天才だと思ってなきゃ  
この商売やってらんない」

「成功サクセス手に入れて、  
ポツーンと立ってるオジサン。  
そんなの嫌だよな」

# 熱い男の生きざまにシビれる!

日本のロックの歴史はこの男で始まった——

不世出のカリスマ、矢沢永吉が、全身でROCKと人生を語る30年間の軌跡。

貧しさが少年に決意をさせた。「これは絶対に上に行  
かなきゃダメなんだ」

1972年、日本の音楽シーンは、平和を歌うフォーク  
の全盛期。そんな中、リーゼントに革ジャン、黒ずくめ  
のファッションで矢沢はR&Rバンド「キャロル」を率  
いて衝撃のデビュー。解散後、ソロ・アーティストの  
道を選んだ矢沢は、会場使用拒否など立ちはだかる  
様々な障害と戦いながら、名実ともにトップスターと  
なるが、更なる高みを目指し、自分の音楽を追求し  
続け、武道館100回公演という偉業を成し遂げる。

ライトを切り裂くようにしてステージに駆け上がる。  
観客の心を鷲掴みにし、熱狂の頂へ誘うダイナミッ  
クなステージングを収めたカメラは、一転、舞台裏へ  
入り込み、素顔の矢沢を追いかける。緊張感あふれ  
るレコーディング風景。完成の一手手前で、容赦なく  
ダメ出ししながら、疲れを見せるスタッフを気遣い、  
場を盛り上げ、テンションを上げてパーフェクトな音  
を作り上げていく。あるいはプライベートな時間の、

家族を想い、話す、リラックスした矢沢の優しい素  
振りをすくい取る。

野心に満ちた目で夢を語る若き日の矢沢と、今、60  
歳を迎えた矢沢が先に見ているもの…。貴重な未  
公開映像の数々が、30年間の歳月を映し出す。素  
顔の矢沢にカメラを向け続けたのは、前作「矢沢永  
吉 RUN&RUN」(80)プロデューサーの増田久雄。  
国内のみならず、アメリカ、南太平洋ミクロネシア等  
の撮影を交えながら、オンとオフ、インとアウトの矢  
沢を様々な角度で映し出した本作は、二人の信頼  
関係なくしては完成しえない、傑作ドキュメンタリー  
となった。

「60歳になってもロックをやれる、ケツが振れる。それ  
に感謝しないで、何が感謝だ」。

こんな台詞をサラッと言っているのけるカリスマは他に  
はいない。

2009年9月19日、東京ドームでバースディライブ開  
催。矢沢は、更に上を目指す。



本編使用曲

「コバルトの空」 「時間よ止まれ」  
「トラベリン・バス」 「カモン・ベイビー」  
「止まらないHa~Ha」 「Oh Yeah」  
「切り札を探せ」 「I LOVE YOU, OK」  
「Wonderful Life」 他

11月21日<sup>土</sup>全国ロードショー

9月19日(土)より 特別鑑賞券発売開始

TOHOシネマズららぽーと横浜

tel.045-929-1040

PC <http://www.tohocinema.com>

携帯 <http://tcit.jp>

映画盗撮は犯罪!  
発見したら  
www.eigaikan.org  
0120-550098